2020年度 特定非営利活動法人リアライズ総会議案

日時：2020年6月12日（金）19：00～21：00

場所：助松会館

参加者：

欠席者：

1）議長選出

2）理事長の退任について

3）役員の変更について

4）法人名の変更について

5）2019年度事業報告(案)・決算報告(案)

6) 2020年度事業計画(案)・予算(案)

7）定款の変更について

8)　その他の議案

・理事長退職金規定（案）について

　　　・理事長給与規定（案）について

　　　・理事長の給与の支払い規定（案）について

9)　議事録署名人選出

**2019年度ＮＰＯ法人リアライズ事業報告書**

2019年4月1日～2020年3月31日

特定非営利活動法人リアライズ

**Ⅰ．2019年度活動総括**

＜社会情勢＞

2019年度末より、戦後最大の危機ともいわれている新型コロナウイルスの感染拡大により、日本を含めた世界各国で多くの命が犠牲となっていることを受け、まずは哀悼の意を表明する。そして、一刻も早い事態の収束を願いつつ、自らのリスクを抱えながら障害者の自立生活のため尽力してくれているスタッフに感謝を伝えたい。

2020年4月、我が国において新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として緊急事態宣言が発令され、社会生活及び経済活動における厳しい制限と直面している。こういう社会全体が危機的な状況において、障害者の置かれる環境があまりにも脆弱であることを体感しているところである。感染予防への支援、感染した際の支援、福祉基盤維持のための支援等、障害者特有の支援においての対策を官民一体となって構築する必要があると強く感じている。

リアライズにおいても、新型コロナウイルスによる影響は大きく、2020年4月より感染拡大防止策として、事務所出勤の制限に伴うテレワークの導入、介助派遣の個別担当制、生活介護パイオニアの閉所、感染予防・対策マニュアルに沿った対応など、イレギュラーな制限による人材と財源への負担も課せられている現状がある。

このように、2020年度は、新型コロナウイルス感染のリスクや社会情勢に適応しつつも、人材と財源への影響を最小限に食い止めるための調整をし、必要な支援については国や地方自治体との協議を求めていく所存である。

**Ⅱ．システムアドボカシー活動報告**

**１．障害者差別解消法及び大阪府障害者差別解消条例の施行に併わせた取り組み**

障害者差別解消法及び大阪府障害者差別解消条例の施行に伴い、障害者が差別を受けた際に自治体や関係団体への相談・報告をし、差別を行った事業者に対し差別解消に向けたやり取りを積極的に行っていくよう努めている。2016年11月に泉大津市・忠岡町地域自立支援協議会権利擁護部会（障害者差別解消支援地域協議会）が設置され、リアライズも委員として参画している。

2018年度にリアライズが加盟している泉州障害者自立生活連絡会(以下、泉障連)の施策推進部会にて、厚生労働省の福祉事業所向けの対応指針を元に差別解消ガイドラインを事業所ごとで作成した。そこで、泉州地域においても障害者差別解消条例を制定できるように、茨木市の条例制定に携わった当事者の方を講師に招き、条例制定までの具体的な取り組みやノウハウを学ぶための内部向け学習会を泉障連主催で開催した。

リアライズ独自のガイドラインの内容を充実させるべく事務局のメンバーで確認したところ、ガイドラインはもとより、法律そのものの内容を知らないメンバーも多いという意見が出た。そこで2019年度は、障害者メンバー及び健常者スタッフ一人ひとりが法律を理解し、ガイドラインをより良くしていけるようにリアライズにおいて内部向けの学習会を開催することとなった。しかし、施策推進部会で活動していた障害者のメンバー1名が体調不良により2019年10月中旬より長期療養に入ったため、準備が困難という理由から年度内の開催は見送った。

**２．車イスユーザーへの管理会社による入居差別に対する取り組み**

2018年度、リアライズの障害者スタッフで車椅子ユーザーのA氏が物件探しをするなかで管理会社による入居差別に遭った。仲介業者である不動産会社が不利益を被ることなく、尚且つ差別を明るみにし、適切な問題解決を図れるよう、差別解消に向けての新たな仕組みを模索している。2019年10月にも地域の障害者から入居差別や賃貸契約トラブルなどの相談があり、泉大津市障害福祉課に差別事例として報告し、解決を進めた。

現在、不動産会社へのヒアリングを行っており、大阪府の障害者差別解消窓口に対して意見提起をしていく予定である。

**３．泉大津市での審査会の問題についての取り組み**

現在、Bさんの自立生活に向けての取り組みは、本人が体調不良により長期入院をしていたことや、介助者不足のため止まっていた。しかし、2019年11月より取り組みの一つである1泊2日の自立体験が再開したため、本人の体調を見ながら徐々に期間を延ばしていく予定である。その中で、長期の自立体験及び実際に自立生活を営む上で必要な介助時間数が明確になった時点で、泉大津市に対して支給決定を行うように求めていく。

**４．泉大津市の入院時コミュニケ―ション支援事業の創設に向けての取り組み**

具体的な事例がないため、2019年度についてはその他の課題に取り組んだ。

**５．南海電鉄 駅員無配置化問題 解消に向けての取り組み**

地元の自治会や子ども会、リアライズ、泉障連などで構成する松ノ浜実行委員会から、南海電鉄に向けて駅員無配置駅設備の改善提案書を10月に提出した。項目については、以前収集した松ノ浜駅利用アンケート345件分の意見を分析し、(1)トイレの防犯設備強化、(2)モニター付インターホンの設置、(3)電光掲示板の設置、(4)車椅子乗降用スロープの車掌対応、(5)公衆電話の設置の5点とした。

これに対し、2019年12月4日付で南海電鉄より回答があった。(1)(2)(3)については、前向きな回答であったが、(4)は車掌の業務に支障を来すとの後ろ向きな回答、(5)は管轄外のため検討不可との回答であった。この回答を松ノ浜実行委員会内で共有し、今後の提案の仕方や改善の進め方などについて検討を進めている。

**６．南海バスの接遇問題等の改善に向けての取り組み**

リアライズの障害者スタッフC氏（車イスユーザー）から南海バス光明池営業所が管轄しているバスを日頃利用する中で不便さを感じているとの相談がリアライズにあった。特にバスに内蔵されているスロープが出ないケースやバス停で待っているにも関わらず見落とされ発車されてしまうケースが後を絶たず、活動に遅刻するなど支障を来していた。これらの改善のためにも障害者を対象とした接遇研修の実施を求めている。

また、南海バスとして、堺営業所で年に1回、障害者に特化した接遇研修が行われている。これは全営業所に参加の呼びかけを行っているものの、大半が堺営業所の従業員で他の営業所の従業員の参加が難しい現状がある。この研修と同様のものを光明池営業所でも開催するよう訴えているが、人員的な面や他の研修との兼ね合いで、年1回以上の開催は難しいとのことだった。

2019年12月に行われた接遇研修の営業所別乗務員参加比率は、堺が70％、光明池は9％であった。今後研修を受講する営業所の偏りをどう解消していくのか、障大連と連携しながら南海バスとの協議を継続するとともに、大阪府の差別解消相談窓口を通じて南海バスに接遇改善を働きかけていくことを含め、多角的に取り組んでいく。

**7．大津川河川敷公園におけるハートフルゲート撤去の取り組み**

泉大津市と忠岡町の境に流れる大津川の忠岡町側には、河川敷公園へと入る5ヶ所全てのスロープにハートフルゲートが設置されており、車イスユーザー等が非常に使い辛い状況にある。この問題がリアライズのメンバーより挙がり、2017年7月から改善に向けて取り組んできた。

2019年3月に新たにハートフルゲートの1ヵ所が撤去され、バリアフリーな出入口が実現されている。町としてもゲートを外すことによる事故や苦情等の懸念もあったが、事故や騒音等のトラブルもないようだった。

**８．和泉中央駅―桃山学院大学間の歩道橋エレベーター設置の取り組み**

和泉中央駅－桃山学院大学間付近のエレベーターの設置については、2019年3月中旬に着工、2019年8月に周辺設備の整備も含め無事竣工した。

エレベーターのサイズがやや小さいことや、周辺の点字ブロックの整備が不十分であることなどの課題は残るが、多くの市民にとって旧来の階段昇降機に比べ、より安全で移動しやすい環境が整備された。

**９．泉大津ＴＲＹ**

上半期に引き続いて、継続的に毎月一回募金活動を続けている。2020年2月20日現在において、街頭募金で￥247,040-の募金が集まり、全7枚のスロープの購入が完了しており、6軒の店舗に設置ができている。（その他、募金箱への募金や寄付金といった形での募金もいただいている。）また、それに加え、泉大津TRYの活動の話を聞いたことをきっかけに、スロープを自主的に購入してくれた店舗もあった。

↑小津中学校の皆さんとともに！

2020年 1月をもって1周年を迎え、登録ボランティアや地域の方々を始め、泉大津市内の中学校の生徒など、地域の色々な方々と一緒に活動を進めてきている。

募金額においても、一年という長期間の活動ではあるが、毎回一定の額をコンスタントにご協力いただいており、地域の方々の思いを日々感じながら活動している次第である。

↑インド料理屋「シタル」さん

のスロープです☆

（※2020年3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。）

**１０．泉大津市役所に隣接する東雲公園出入り口バリアフリー化の取り組み**

2020年2月末、泉大津市役所に隣接する東雲公園に新たにバリカーが設置されていると泉障連に相談が寄せられた。この出入り口は市役所への最短経路の１つのアクセスとして利用していたので困っているとのことだった。実地調査を行ったところ、コの字型バリカーが公園出入り口に３つ新設されており、比較的広く通行部はとられているが、大型の車いすや、シニアカーでは通行できなくなっていた。

市に確認したところ、「従来の地面に収納できるタイプのバリカーを設置していたが老朽化のため動かなくなり、新設した。設置の際には車椅子の方へも配慮し、通行部は広くとったが配慮が届かず申し訳なかった。改修できるか担当者と相談してみる」と回答をもらった。数時間後に電話を頂き、2020年度に改修工事ができるよう取り組んでみるとのことだった。改修の際には改めて意見交換を行い、改善に向けて取り組んでいく。

**Ⅲ．2019年度事業一覧・・・割愛**

**Ⅳ．2019年度事業報告**

**１．自立生活センター・リアライズ【相談支援・エンパワメント事業部門】**

**◆2019年度相談支援・エンパワメント事業部門総括**

2019年度は新たな障害者との出会いや、これまで相談で関わってきた障害者の生活が大きく変化するなど新しい兆しが見られた。

京都市にある日本自立生活センター(以下、JCIL)からの紹介で、現在、旧国立療養所に長期入院している筋ジストロフィーのAさんと出会うことができた。Aさんは将来的に、実家の和歌山市から近い地域として大阪府の南の方の地域での自立生活を希望している。4月に男性コーディネーター、パイオニアの障害者メンバー、生活支援員など幅広いメンバーと共に顔合わせをし、その後、JCILと協力しながら外出支援などに取り組んでいる。7月にリアライズに来所し、自立体験室で一泊をしたことを皮切りに10月に1回、11月に2回、12月に1回と、リアライズや他の自立生活センター主催のイベントに参加し、自立体験室で宿泊しながらリアライズ内外での繋がりを深めつつある。

4年前に大阪市内での交通街づくりイベントにて出会ったBさんについては、相談活動や自立体験を経て、昨秋に晴れて現在のグループホームを退所し、自立生活をスタートさせた。コーディネーターや介助者、生活介護のメンバーと協力しながら、本人のエンパワメントや自分らしい生活を作っていけるように応援していく。また、生活スキルや介助利用の面で本人が悩みを抱え込まず、気軽に相談ができる雰囲気作りに努めていく。

これまで生活介護で活動してきたCさんが2019年春に結婚し、2019年夏に出産した。リアライズでは、これまで、子育てをする障害者を支援する経験がなかった。そのため、既に経験している他センターの障害者にアドバイスをもらうなどし、コーディネーターや介助者と連携しながら、本人が介助を利用するなかで安心して子育てに専念できるように応援している。2018年度9月から怪我により療養していた夫が来春に復職することから、夫がいない時間の介助体制や子どもの保育所への通所支援など新たなライフスタイルに向けてのサポートの在り方を考えていく。

2019年10月中旬より男性の障害者の相談員が体調不良により長期療養に入ったため、女性の障害者の相談員1名で相談業務を担うこととなった。長期療養に入った相談員が担当していた計画相談のケースなどについては、介助などで関わる健常者スタッフにも聴き取りや情報共有に協力してもらいながら、相談活動が途切れないように尽力してきた。

一方で計画相談などの業務に追われる中で、日頃共に活動する障害者の生活相談や活動にまつわる相談に乗るための時間を作りにくい状況があった。また自立に向けて取り組んでいる障害者のケースにおいて、他部門のメンバーと事務的なやり取りに終始して密なコミュニケーションを取り、一つひとつの取り組みで協働する余裕を持てずにいた。

以上のように、自立を目指す本人に対し、日頃から関わっているメンバーや、今後エンパワメントを担っていくであろうメンバーと共にチームとなって応援できるよう、相談業務の整理やエンパワメント活動の強化を図る必要があると考えている。

**(1)泉大津市指定特定相談支援事業［※障害者総合支援法に基づく相談支援事業］**

**相談対応実績報告(2019年4月‐2020年3月)**

|  |  |
| --- | --- |
| 相談件数 | 499　件 |
| 相談時間数 | 425時間　55分 | 稼働時間数 | 469時間　35分 |
| 相談時間数／相談件数 | 51.21分 | 稼働時間数／相談件数 | 56.46分 |

【　補足事項　】

相談件数、相談時間数の記載は、1相談あたりにかかった数値

稼働時間数は、全相談員が稼働した延べ時間数

■年齢別集計

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年齢別 | 0〜6 | 7〜17 | 18〜29 | 30〜39 | 40〜49 | 50〜59 | 60〜64 | 65以上 | 不明 | 合計 |
| 男 | 0 | 0 | 121 | 62 | 29 | 4 | 0 | 0 | 0 | 216 |
| 女 | 0 | 0 | 2 | 269 | 11 | 1 | 0 | 0 | 0 | 283 |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 0 | 0 | 123 | 331 | 40 | 5 | 0 | 0 | 0 | 499 |

【　補足事項　】  
・年齢は当該年度4/1時点での満年齢とする

■障害程度別集計（複数カウント）　重複件数　306　件

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 障害程度 | 身体 | | | | | | 知的 | | | 精神 | | | 不明 | 合計 |
| １級 | ２級 | ３級 | ４級 | ５級 | ６級 | Ａ級 | Ｂ１級 | Ｂ２級 | １級 | ２級 | ３級 |
| 男 | 154 | 11 | 2 | 0 | 0 | 0 | 143 | 7 | 3 | 0 | 20 | 2 | 19 | 361 |
| 女 | 261 | 0 | 11 | 0 | 0 | 0 | 22 | 24 | 0 | 0 | 1 | 0 | 8 | 327 |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 415 | 11 | 13 | 0 | 0 | 0 | 165 | 31 | 3 | 0 | 21 | 2 | 27 | 688 |

■障害種別集計

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 障害種別 | 肢体 | 視覚 | 聴覚 | 内部 | 知的 | 精神 | 重複 | 重心 | 難病 | 発達 | その他 | 不明 | 合計 |
| 男 | 5 | 0 | 0 | 2 | 10 | 20 | 21 | 143 | 15 | 0 | 0 | 0 | 216 |
| 女 | 40 | 0 | 0 | 11 | 3 | 0 | 1 | 44 | 184 | 0 | 0 | 0 | 283 |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 45 | 0 | 0 | 13 | 13 | 20 | 22 | 187 | 199 | 0 | 0 | 0 | 499 |

【　補足事項　】  
・重心：障害に肢体＋知的を含むもの  
・重複：肢体＋知的以外の障害重複のもの

■相談内容別集計（複数カウント）　重複件数　543　件

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 相談内容 | 自立 | 日常 生活 | ＩＬＰ | 介助 | 日中 活動 | 住宅 | 制度 | 情報 提供 | 権利 擁護 | 日常生活 用具 | 補装具 | 就労 | 医療 | 教育 | 計画 相談 | モニタ リング | 地域 移行 | 施設 入所 | 差別 | 虐待 | ケア 会議 | その他 | 不明 | 合計 |
| 男 | 74 | 89 | 17 | 46 | 32 | 3 | 39 | 0 | 0 | 5 | 13 | 12 | 33 | 0 | 7 | 42 | 0 | 2 | 0 | 0 | 14 | 0 | 2 | 430 |
| 女 | 65 | 154 | 2 | 101 | 16 | 6 | 63 | 61 | 6 | 0 | 1 | 0 | 72 | 0 | 2 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 2 | 566 |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 139 | 243 | 19 | 147 | 48 | 9 | 102 | 61 | 6 | 5 | 14 | 12 | 105 | 0 | 9 | 54 | 0 | 2 | 0 | 0 | 17 | 0 | 4 | 996 |

【　補足事項　】

・ILP：自立生活プログラムの略称。ILPを実施もしくはそれに向けての打ち合わせ、

それに関連する相談を含む

・計画相談：サービス担当者会議を開催した件数でそれに伴う連絡調整等はカウントされない

・モニタリング：モニタリングを実施した件数でそれに伴う連絡調整等はカウントしない

・ケア会議：ケア会議を開催した件数でそれに伴う連絡調整等はカウントしない

■アクセス手段別集計

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 手段別 | 来所 | 訪問 | 電話 | 文書 | メール | ＦＡＸ | その他 | 不明 | 合計 |
| 男 | 65 | 81 | 69 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 216 |
| 女 | 30 | 45 | 33 | 0 | 175 | 0 | 0 | 0 | 283 |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 95 | 126 | 102 | 0 | 176 | 0 | 0 | 0 | 499 |

【　補足事項　】

・メール：受信とそれに対する返信で1カウントとする。LINEでのやり取りも含む

■障害支援区分別集計

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年齢別 | 非該当 | 区分１ | 区分２ | 区分３ | 区分４ | 区分５ | 区分６ | 不明 | 合計 |
| 男 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 2 | 137 | 66 | 216 |
| 女 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 261 | 22 | 283 |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 2 | 398 | 88 | 499 |

**◎計画相談支援障害種別集計（人数）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 障害種別 | 肢体 | 視覚 | 聴覚 | 内部 | 知的 | 精神 | 重複 | 重心 | 難病 | 発達 | その他 | 不明 | 合計 |
| 男 | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 1(0) | 0(0) | 1(0) | 0(0) | 4(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 6(0) |
| 女 | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 1(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 1(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 2(0) |
| 不明 | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| 合計 | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 2(0) | 0(0) | 1(0) | 0(0) | 5(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 8(0) |

【　補足事項　】

・計画相談支援におけるサービス担当者会議を開催した件数のみカウント

・( )内は新規に当たる人数

・新規：期間内に新規相談がある利用者

**計画相談支援事例報告**

氏名：Aさん　年齢：40代前半　性別：男性

障害：重症心身障害

言葉でのコミュニケーションが難しく、日常生活のあらゆる場面に介助が必要。

自立生活を目指して自立体験室での宿泊体験に取り組んでいたが、体調が悪化し、現在は、介助派遣や訪問看護、訪問リハビリ、生活介護を利用しながら家族と生活をしている。

体調が少しずつ安定してきたため、2019年11月から1泊2日の自立体験を再開することとなった。今後は本人の体調を見ながら、無理のない形で自立体験の取り組みを進めていく。

氏名：Bさん　年齢：40代前半　性別：男性

障害：脳性麻痺、知的障害

18歳まで地域で暮らしていたが、その後、施設に入所した。

　2017年からリアライズの体験室を利用して2泊3日の宿泊体験を毎月のペースで実施している。体験室での宿泊中は、ほとんど一睡もしない状態が続いている。今後は自立体験における目的などを明確にし、より有意義な自立体験にしていけるよう関わっている相談員や介助者で在り方を考えていくこととなっている。

② 泉大津市・忠岡町地域自立支援協議会報告

〇泉大津市・忠岡町地域自立支援協議会

本会議…年1回開催、運営会議…年1回開催

〇泉州北圏域地域移行居住支援部会概要

泉州北圏域地域移行居住支援部会は和泉市地域自立支援協議会、高石市地域自立支援協議会、泉大津市・忠岡町地域自立支援協議会の下部組織という位置づけで、部会の目的は3市1町における地域移行・地域定着支援システムの整備並びに推進の役割を担い、自立支援協議会などへの提案を行っている。開催は2ヶ月に1回（偶数月の第4火曜日)。部会の事務局はリアライズ、かざみどり相談室、高石障害児（者）生活支援相談室で相談支援事業所が担っている。

参加機関は、当事者、行政、保健所、社会福祉協議会、相談支援事業所、居住系事業所、訪問看護事業所など。

　　これまで男性の障害者の相談員が会のメンバーとして出席し、事務局での役割を担ってきたが、先述の通り2019年10月より長期療養に入ったため、現在は他の事業所のメンバーに役割を委ねている。

③ 泉大津市相談支援・権利擁護ネットワーク活動報告

【目的】

泉大津市にかかわる障害者総合支援法に定められた相談支援専門員及び相談支援事業所が、障害者の本人の意思を尊重し、本人の権利を守るための相談支援を行うため、相談支援専門員及び相談支援事業所のネットワークを構築し、相互の資質の向上をはかることを目的とする。

【対象者】

障害者本人の権利擁護の観点に立った相談支援専門員及び相談支援事業所

【活動内容】

　　① 障害者本人の権利擁護の観点に立った相談支援ネットワークの構築

　　② 障害者本人の権利擁護の観点に立った相談支援従事者の育成

　　③ 障害者の権利に関する提言及び発信

　　④ その他、当会の目的を達成するために必要な事業

【2019年度活動実績】

総 会：8月

運営会議：5月・11月・2月

研 修 会：3月・6月・9月・12月

**(2) 自立生活相談事業［※権利擁護事業］**

**① 自立生活相談事業**

**◆事例報告**

氏名：Cさん　年齢：30代後半　性別：女性

障害：難病

現在、本人の体調の変動や相次ぐ介助派遣事業所の撤退により長期入院を余儀なくされている。本人が再び在宅での生活を送れるよう、本人のエンパワメントや家族、医療機関等との関係調整に取り組んでいく。

氏名：Dさん　年齢：50代後半　性別：男性

障害：難病

2018年5月から本格的に家探しに取り組み、難航していたが、ようやく良い物件を見付けることができ、2019年3月に自立した。今後は医療的ケアの導入も視野に入れながら、介助者との関係性づくりや金銭管理などの相談に乗り、サポートしていく。

**② ピアカウンセリング事業**

2015年度よりエンパワメント事業部門(現:相談支援・エンパワメント事業部門)と生活介護部門が連携し、「せんしゅうちいきピアサロン」を実施してきた。

当初は、運用のあり方や地域の障害者の参加が少ないことなどが課題となっていた。しかし、担当者を増員し、周知活動にも力を入れるなどした結果、毎回コンスタントに参加者が見られるようになった。また、パイオニアの障害者メンバーの中には参加者とのコミュニケーションに苦手意識を抱いている者もいたが、プログラムにアイスブレイクを取り入れたことなどにより、参加者との関わりを持ちやすくなった。現在は、アイスブレイクをあまり取り入れなくても参加者との会話が自然と弾むようになり、毎回賑やかな雰囲気となっている。またハロウィンやクリスマス、正月といった季節のイベントに合わせたプログラムも用意することで、マンネリ化することなく、参加者に楽しんで頂けている。

相談で繋がった障害者への呼び掛けや周知活動の成果もあり、現在も多くの参加者が見られる。

現在は新たに相談で繋がった障害者とパイオニアメンバーとの関わりが薄いという課題もあることから、そうした障害者への呼び掛けをより行っていくこととなった。

**(3) 自立生活体験事業［※権利擁護事業］**

**① 自立生活プログラム事業**

個別プログラムを自立支援や自立体験を進める中で適宜行ってきた。

**② 自立生活体験室事業**

宿泊、日帰りでの自立生活の体験の場や、海外研修生などの宿舎として自立生活体験室の提供を行っている。 (2019年4月‐2020年3月31日時点)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| NO. | 利用期間 | 利用日数 | 障害種別 | 性別 |
| 1 | 4月4日 | 1日間 | 知的障害 | 女性 |
| 2 | 4月20日～4月22日 | 3日間 | 知的障害 | 男性 |
| 3 | 4月27日～4月29日 | 3日間 | 身体障害 | 男性 |
| 4 | 5月 1日～5月5日 | 5日間 | 知的障害 | 男性 |
| 5 | 5月24日～5月26日 | 3日間 | 身体障害 | 男性 |
| 6 | 6月15日～6月17日 | 3日間 | 知的障害 | 男性 |
| 7 | 6月17日～6月23日 | 7日間 | 身体障害 | 男性 |
| 8 | 7月5日～7月6日 | 2日間 | 身体障害 | 男性 |
| 9 | 7月19日～7月21日 | 3日間 | 知的障害 | 男性 |
| 10 | 7月22日～7月28日 | 7日間 | 身体障害 | 男性 |
| 11 | 8月10日～8月13日 | 4日間 | 知的障害 | 男性 |
| 12 | 8月19日～8月25日 | 7日間 | 身体障害 | 男性 |
| 13 | 9月16日～9月22日 | 7日間 | 身体障害 | 男性 |
| 14 | 9月27日～9月29日 | 3日間 | 知的障害 | 男性 |
| 15 | 10月13日～14日 | 2日間 | 身体障害 | 男性 |
| 16 | 11月9日～10日 | 2日間 | 身体障害 | 男性 |
| 17 | 11月16日～17日 | 2日間 | 身体障害 | 男性 |
| 18 | 11月22日～24日 | 3日間 | 知的障害 | 男性 |
| 19 | 11月29日～30日 | 2日間 | 身体障害 | 男性 |
| 20 | 12月7日～8日 | 2日間 | 身体障害 | 男性 |
| 21 | 12月28日～30日 | 3日間 | 知的障害 | 男性 |
| 22 | 1月3日～5日 | 3日間 | 知的障害 | 男性 |
| 23 | 1月17日～18日 | 2日間 | 身体障害 | 男性 |
| 24 | 2月10日～12日 | 3日間 | 身体障害 | 男性 |
| 25 | 2月16日～17日 | 2日間 | 知的障害 | 男性 |
| 26 | 3月19日～21日 | 3日間 | 身体障害 | 男性 |
|  | 合計 | 87日間 |  |  |

**(4) 権利擁護事業［※権利擁護事業］**

**① 人権セミナー事業**

今年度は実施しなかった。

**(5) 人材育成事業 [※その他、この法人の目的を達成するために必要な事業]**

これまで介助者の現任研修などでコミュニケーションをテーマに考える講義を実施してきたが、介助を利用する障害者もそこで活動する介助者も、お互いの想いのズレが生じやすく、関係性が行き詰まるといった課題が常にあった。また、障害者・健常者関わらずさまざまな背景を持つ人との出会いが広がるなかで、お互いにとって快いとされるコミュニケーションの在り方を学ぶ必要性が出てきた。

そんな中、他センター主催のイベントをきっかけに関西カウンセリングセンターの理事長である古今堂靖氏と繋がることができた。障害者、介助者が自由に参加できる内部向け学習会に講師としてお招きし、アサーティブコミュニケーションの在り方について全2回に渡り講義をして頂くこととなった。

9月の学習会では「聴く力」と題して、相手にとって心地良いとされる話の聴き方や、相手が求めている応答の仕方はどのようなものかといったことをロールプレイなどを通して学んだ。10月の学習会では「伝える力」と題して、相手の想いに配慮しながら自身の想いも率直に伝える、アサーティブコミュニケーションの方法を学んだ。

今回のように、自分たちの知識や経験でスキルアップを図るだけではなく、その分野に精通する人とも積極的に繋がりながら、外部講師としてお招きし、スキルアップを図っていくことも今後は取り入れていく。

**［人材育成の主な活動］**

【2019年】

4月　ピアカウンセリング集中講座㏌CIL星空

5月　「アクセス関西ネットワーク総会in京都」への参加

6月　メインストリーム協会主催「筋ジスの自立生活とは？～筋ジス病棟

から自立生活へ～」への参加

情報提案発信事業者向け研修会への参加

「2019年度第28回全国自立生活センター協議会協議員総会、職員研修会」への参加

　　 関西カウンセリングセンター理事長の古今堂靖氏を講師に招いての

交流会の開催

7月 白鳳短期大学「リハビリテーション概論」にて講演

　　 大阪府障がい者権利擁護研修にて講演

2019年度障大連総決起集会への参加

　　 オールラウンド交渉への参加

8月　自立生活夢宙センター主催・ノアさんアメリカ帰国後報告会への参加

9月　関西カウンセリングセンター理事長の古今堂靖氏を講師に招いての内部向け学習会の開催

10月 四天王寺大学『相談援助の基盤と専門職Ⅱ』の授業にて講演

　　 関西カウンセリングセンター理事長の古今堂靖氏を講師に招いての内部向け学習会の開催

　　 関西医療大学『環境と健康』の授業にて講演

　　 NPO法人福祉活動と福祉教育の推進協会あすなろ主催「介護入門者研修事業」10月コースにて講演

　　 泉大津市立穴師小学校の人権学習にて講演

11月 DPI日本会議主催「第8回DPI障害者政策討論集会」への参加

　　 NPO法人福祉活動と福祉教育の推進協会あすなろ主催「介護入門者研修事業」11月コースにて講演

　　 泉大津市立穴師小学校の人権学習にて講演

12月 関西大学「福祉の利用者の方々からのお話から考える地域福祉」プログラムにて講演

　　 障大連主催の「大阪障害者自立セミナー2019」への参加

　　 2019年度JIL全国セミナーへの参加

　　 NPO法人福祉活動と福祉教育の推進協会あすなろ主催「介護入門者研修事業」12月コースにて講演

1月 NPO法人福祉活動と福祉教育の推進協会あすなろ主催「介護入門者研修事業」1月コースにて講演

2月 ゆう・ゆうプラザ主催『障がい者が地域の中で生き生きと暮らすために～私たちができることはなんだろう～』にて講演

泉大津市立誠風中学校での人権学習での講演

NPO法人福祉活動と福祉教育の推進協会あすなろ主催「介護入門者研修事業」2月コースにて講演

3月　DPI日本会議主催「差別解消法見直しに向けてのタウンミーティングin

大阪」への参加

**(6) その他事業**

これまで計画相談や基本相談を通じて、障害種別を超えたさまざまな障害者との出会いが増えたものの、相談員や一部の介助者しか関わりを持てず、繫がりが広がらないという状況があった。こうした課題を受け、2018年6月より、毎月1回、「リアライズ食堂」という夕食会を開催することとなった。参加者は主にリアライズのスタッフや生活介護のメンバー、相談で関わっている地域の障害者で、毎回楽しみに参加される方も多い。

ただし、参加者が固定化してきていることと、準備をするスタッフがいつも同じで負担が偏っていること、相談で関わっている人すべてに充分な周知ができていないことなどの課題がある。今後はこうした課題を踏まえ、周知や準備の在り方について、検討していく。

**2．自立生活センター・リアライズ【介助派遣事業部】**

◆**2019年度介助派遣部門総括**

2019年度は、相談支援部門と連携し、4年ほどかけて自立に取り組んできた男性障害者の自立を達成することができた。また、コーディネーター、介助スタッフ、介助リーダーのそれぞれが役割意識にとらわれず、ともに考える場を持ちながら、できることから着実に取り組んでいくことを目標にやってきた。これまでコーディネーターが担ってきた聴き取りやシフト携帯の持ち回りを介助スタッフにも担ってもらうことでコーディネーターの負担は少し軽減されたものの、依然としてコーディネーターに業務が集中していることや介助者不足の状況から介助現場に赴くことも多くある。2019年度上半期と比べ、事務作業や介助者の聴き取りが滞っている現状はあるものの、少しずつ改善の兆しが見られている。しかし、仕組みとして機能していない部分もあることから、介助スタッフだけでなく、必要に応じて介助リーダーや登録の介助者に担ってもらえる役割について検討していく必要がある。

介助者の定着という点においては、リアライズでは新しく入った介助者に対するサポートやフォローしていけるような研修体制を検討しているものの、形になっていない現状がある。2019年度は、常勤の介助者が数名辞めることになったが、新しい常勤の介助者が数名増えたことで介助者不足の急場を切り抜けることができた。しかし、介助者の定着につながる仕組みを考えていかない限り、介助者の流出は避けられない。子育て世代も増え、ライフステージの変化にも柔軟に対応できる形を模索しつつ、新しく入った人に対する研修体制や確認研修などのサポートやフォロー体制を確立していく必要がある。以上のような総括を踏まえ、2020年度に向けて取り組んでいく。

**○コーディネーター業務の整理**

介助派遣における体制としては、コーディネーターを男女それぞれ2名配置している。現在コーディネーターの業務は、シフト調整、聴き取り、研修、会議への参加、事務作業、介助等多岐にわたって行っており、介助者不足の状況も相まって自立支援の取り組みをなかなか進めることができていない。コーディネーターに業務が集中し、負担が大きくなってきていることから、コーディネーター以外が担える役割を介助スタッフにも担ってもらえるようにリアライズ内で話し合った結果、聴き取りをする人やシフト携帯を持つ人を増やし、コーディネーターの負担を分散することができた。しかし、依然としてコーディネーターに業務が集中していることから、更なる分散を図るため、男女のコーディネーターで話し合う場を設け、それぞれが担っていることを出し合った。結果、業務内容が可視化され、コーディネーターが担う役割と介助スタッフに担ってもらうことができる役割が整理されつつあるものの、これまでコーディネーターが積み上げてきたものを介助スタッフへどのようにして担ってもらうのかを検討しなければならない。シフト調整については、これまで障害者や介助者から訊きとって集める期限を早め、シフト作成にかける負担軽減を試みた結果、一定の成果を得ることができた。また、試験的にタブレット端末を導入することで、シフト作成や調整の効率化を検討している。事務作業については、コーディネーター以外に担ってもらえることに関しては、適時割り振っていくことで捗っている状況にある。だが、安定的に担ってもらう形には至っていないことから引き続き検討していく必要がある。コーディネーター業務の整理については、まだまだ課題山積ではあるものの、リアライズに関わる一人ひとりが役割意識に捉われずに活動し、業務の一部を担いながら、ともに考えていける仕組みを引き続き模索している。

**○シフト携帯の持ち回りについて**

コーディネーター業務の負担軽減の一環として、シフト携帯についても他のスタッフと持ち回りを行っている。シフトの調整では、障害者や介助者とのやり取りの中でコーディネーターも悩み、葛藤しながら調整しているが、この経験を通して介助スタッフも一緒に考えてほしいと思っている。

シフト携帯の持ち回りを実施して一年が経過した。この一年を振り返り、何かあった時に調整できる人が増えたことから、とても助かっているという意見があった。その一方で、介助スタッフから調整の難しさを感じているという意見があり、その要因の一つとして、調整の仕方や判断が異なっていることが考えられるため、男性・女性に分かれて共有する場を設けることを検討している。しかし、日々の業務や緊急の対応に追われ、コーディネーターや介助スタッフが集まって話し合える場を作ることができていないため、場作りが急務である。

**○介助者の聴き取りの実施について**

介助者の聴き取りは、当初、特定事業所加算の取得にあたり、会議を持たなければならないという要件があったことから開始した。介助者は、介助現場と自宅の直行直帰になるため、孤立しやすく、悩みやしんどさを抱え込みやすい状況にある。その中で誰にもその悩みを話すこともできず、辞めていく介助者も出てきたことから、コーディネーターが聴き取りを行うようになった。  
　聴き取りは月に一度、介助者が事務所へ来る日を調整し、コーディネーターと1時間くらい話し合う時間を設けている。その中では、介助の悩みや生活の悩み等について目を向け、介助の事だけにとらわれずに話をしている。聴き取りがあることで介助者が自身の介助について振り返るきっかけにもなっている。リアライズが障害者のことだけでなく、介助者のことも考えているということによって介助者の安心感につながり、介助者が一定程度定着する要因にもなっていると考えている。  
　2018年4月から、コーディネーター以外の介助スタッフも聴き取りを担当することになり、実際に聴き取りをする上でコーディネーターが意識していることや聴き取りの難しさ等について共有する場を設けた。   
　コーディネーターが担当していた介助者の聴き取りを、一部介助スタッフにも割り振ったが、介助者との日程調整がつかず、コンスタントに聴き取りができていない現状がある。また、聴き取りを割り振ったことでコーディネーターの負担は少し軽減されたものの、事務作業や介助者不足の影響で介助現場に出ていることが多いことから、介助者全員の聴き取りまではできていない現状がある。特に、男性は女性と比べて、安定的に聴き取りを実施することができていないことから、聴き取りの担当を再編成し、安定的に聴き取りを実施することが出来る体制を目指して取り組んでいるところである。

**○聴き取り共有会について**

2018年8月から月に一度、コーディネーターや介助スタッフが一堂に会して聴き取り共有会を行っている。聴き取り共有会では、それぞれの聴き取りの現状や難しさを共有するとともに、介助者の状況、新しく入った人に対する研修体制、コーディネーターと介助スタッフの悩みや不安等、多岐に渡って話し合っている。これまではスタッフ間で顔を合わすことが少なく、それぞれの状況を把握しにくい現状があったが、こうした共有の場を定期的に持つことで、以前よりそれぞれの現状が把握できるようになってきている。

**○新しく入った介助者に対する研修体制について**

リアライズでは、介助者の定着が課題となっており、状況を改善する取り組みの一つとして、研修体制を考えていくことになった。

他団体の実践や取り組みを参考にしていく中で、介助者が定着する理由の一つとして「研修体制がしっかりしているから選んだ。」という意見があった。しかし、リアライズは新しく入った人に対するサポートやフォローが十分ではないこと、介助現場で問題が起きてから表面化して障害者任せになっている現状がある。そこで、介助スタッフや介助リーダーが新しく入った介助者を、障害者とともに育てながら、サポートやフォローをしていける研修体制を聴き取り共有会で検討している。現段階で決まっていることは、主に１年未満の介助リーダーを対象にコーディネーターや介助スタッフが担当するといったことにとどまっている。そのため、担当が決まっていてもどのようにしてサポートしていけばいいのか分からず、足踏み状態に陥っている。そういった状況を打開していくため、聴き取り共有会に参加する一人ひとりが考え、意見を出し合って形にしていくことを目指して話し合っている。出来ることから一つずつ積み重ねながら、介助者の定着につなげていく必要がある。

**○確認研修の実施について**

2019年2月から、障害者の負担軽減と登録の介助者を育てていくための試みとして、確認研修を実施して一年が経過した。頻度としては、男女ともに平均月1～2回くらいのペースで実施している。確認研修は、単発的に実施するケースが多く、定期的に実施するケースが少ない。ケースの中には、定期的に実施したいという思いはあっても、介助者不足によるシフトの状況によってできていない現状がある。

確認研修を実施する以前は、障害者や介助者は同行研修を経て慣れているから問題はないと思っていたものの、研修として介助現場に介入することで、障害者や介助者双方によるやり取りのズレや介助の改善点が明確になった。

今後も障害者や介助者から、確認研修をしてほしいという希望やコーディネーター、介助スタッフ等の第三者から見て必要性を感じた場合は、随時確認研修を実施していくことを考えている。

**○介助者不足の問題**

現在、リアライズで介助業務を担っている女性は、介助スタッフ5名（内、1名が育休中）、介助リーダー1名、登録介助者23名の内12名は学生である。その内4名の学生が3月で卒業する。24時間に近い形で介助を入れている障害者が多く、出産に伴い生活スタイルが変わった障害者もいるため、継続的に介助者の募集が必要な状況がある。登録介助者の多くは試験や実習による多忙も重なり、また、他の仕事と掛け持ちをしている人も多いが、シフトの固定化の呼びかけにより、少しずつではあるが定期的に介助に入ってもらえる人が増えてきた。女性は結婚や出産等ライフスタイルの変化も大きく影響するので、働き方や仕組みについて考えていきたい。   
　男性は、介助スタッフ6名(内1名は生活介護管理者)、介助リーダー6名、登録介助者11名の内、7名が学生である。その内2名が3月で卒業予定。男性は女性に比べて常勤の介助者は多いが、自立生活を始めた障害者もいることから、登録の介助者募集は引き続き必要な状況にある。また、一部の障害者にしか入れていない介助者も居るため、シフト全体を見渡した時にアンバランスなシフトになっており、登録の介助者が少しでも多くの障害者に入れるように研修を進めている。

男性に比べて女性は、常勤の介助者が数名退職していることもあり、いまだかつてない深刻な介助者不足になっていたが、介助者募集の成果が少しずつあらわれてきている。新たな自立支援にも取り組んでいけるよう、体制を整えていきたい。

介助者募集の方法としては、ビラ配りや大学周りの他、バイトルやインディード、介護ジョブ等のネット媒体で介助者募集の掲載を定期的に行っている。2019年度は67名の応募があり、15名が登録の介助者につながった。（2019年4月～2020年3月）また、介助者紹介キャンペーンと題して、常勤の介助者、登録の介助者を対象に、新たな人をリアライズに紹介し、登録介助者につなげて半年の活動実績を経ることができれば、紹介料として3万円を贈呈する企画を実施している。

**○介助のことを一緒に考える集まり（通称：介助を考える会）について**

2018年9月から相談部門と連携して行っていたが、場の持ち方や方向性が不明瞭になってしまったことから、現在は中断している。中断してからしばらく経過しているため、今後どうしていくのかを検討していく必要がある。

**○特定事業所加算の取得状況**

2014年12月から常勤職員40％以上の要件で特定事業所加算Ⅰを取得している。   
（2020年3月末時点…43.7%）

常勤職員の割合を注視していく。



**○介助者研修事業[※自立生活介助者育成事業]**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 回数 | 日付 | 内　　　　　　　　　　容 | 参加  人数 |
| 第1回 | 5.26 | 『調理研修』  講師：リアライズスタッフ | 7名 |
| 第2回 | 9.29 | コミュニケーション研修  ～聴く力編～  講師：関西カウンセリングセンター　古今堂靖氏 | 16名 |
| 第3回 | 10.20 | コミュニケーション研修  ～伝える力編～  講師：関西カウンセリングセンター　古今堂靖氏 | 18名 |
| 第4回 | 11.10 | 自分史  講師：永田勇次氏 | 9名 |
| 補講 | 3.8 | 差別解消法タウンミーティングin大阪  講師:DPI日本会議　曽田夏記氏  DPI日本会議　崔栄繁氏  障害者自立支援センター・スクラム　酒井建志氏  障大連　西尾元秀氏 | 8名 |

【詳細】

第1回の研修は調理研修で、介助者役、障害者役の両方を体験してもらい調理を行った。調理の技術ももちろんだが、指示の難しさや普段の介助に立ち返り介助者としてその場面でどのようなことが求められるかを感じてもらいたいという目的がある。実際参加した介助者からは、「上手く伝えられず何度か諦めてしまった。」「介助者からも発信して貰えないと難しいと分かった。」「障害者にも伝わりやすいように工夫できたらと感じた。」との感想があった。

第2回の研修は、関西カウンセリングセンターの古今堂靖氏をお招きし、コミュニケーション研修～聴く力編～を行った。コミュニケーションについて学びたいという意見や、実際介助に入る中で、介助者も障害者もコミュニケーションに悩むという意見が多かったことから、今回の研修を行うこととなった。今回の研修は聴く力編と伝える力編の2回に渡る連続講座として行った。参加した介助者からは「とても有意義な研修だった」「人の話を聞く上でポイントになることが分かった。」「相手が何を求めているかを見極めながら話を聞くのが難しいと思った。」との感想があった。

　第3回の研修は、前回に引き続きコミュニケーション研修～伝える力編～を行った。継続して参加した介助者も今回のみの参加となった介助者も興味深い内容だったと好評だった。実際アンケートでは「自分が何型か知れていい機会になった。」「伝え方によって相手に与える影響が違う事が分かった。」「自分も相手も大切に思い合うコミュニケーションをとりたいと思った。」との感想があった。

　第4回の研修は、自立が実現した永田勇次さんを講師に招いて自身の経験に基づく自立の話や虐待について語ってもらった。参加者からは「身近な人から実際にあった話を聞くことで腹立たしく感じた。」「閉ざされた環境にいるとその場の色に染まりやすいし、違和感に気付きにくいと改めて感じた。」などの感想があった。生の声を聞くことで他人事ではなく、自分事のように受け止められた人が多かったように感じた。

補講の研修は、DPI日本会議主催の「差別解消法見直しに向けてタウンミーティングin大阪」に参加してもらった。前半の講演では、DPI日本会議の特別常任委員である曽田夏記氏から、障害者差別解消法の見直しに向けてDPIが提言している9つの課題について語られた後、DPI日本会議の議長補佐である崔栄繁氏から、障害者権利条約批准後の流れと視点を基に、障害者基本法の主な課題、障害者差別解消法改正に向けた最新の動向について語られた。後半の地域報告では、障害者自立支援センター・スクラムの酒井建志氏の実体験に基づいたバス乗車拒否事例、障大連の西尾元秀氏による大阪府差別解消条例における施行3年後の見直しについて報告があった。

参加者からは、「障害者がどのようなことで困り、どのような差別を受けてきたのか知る機会がなかったが、障害者の体験談を基に思いや考えを聴くことで、障害者が置かれている状況をイメージできた。」「介助を通じて差別について理解しているつもりだったが、思っていた以上に差別があることを知り、世の中自体が変わっていかなければならないと感じた。」などの感想があった。

**○新人研修**

2016年度から登録3ヶ月以上、１年未満の介助者を対象に、従来から実施している初任者研修、現任研修に加えて新人研修を年2回程度実施している。　新人研修は、介助の中で基本的に注意すべき点を障害者とともに伝え、実際に介助の場面で起こり得る状況について事例をもとにグループワークを行っている。　参加者からは「参加してみんな同じことで悩んでいるのだと知ることができて良かった。」「介助を始めてすぐだと何に悩んでいるか自分でも分からなかったので、このタイミングで参加できて良かった。」という感想を得た。介助派遣の課題として、登録の介助者が定着しないことや常勤につながらないということがあるその理由の一つとして、介助者同士の横のつながりが作りにくいことや悩みを共有する場が少ないことが考えられる。この新人研修では、普段顔を合わすことの少ない介助者同士やスタッフがお互いのことを知り合う良い機会にもなるので、今後も継続していきたいと考えている。

**○重度訪問介護従業者養成研修事業[※居宅介護等従業者及び介護員養成研修事業]**

リアライズでは、重度訪問介護従業者養成研修修了資格の取得を目的とするだけではなく、重度障害者の生き方や想いや経験を知ってもらうことができるよう、障害当事者が講師やサポーターになっている。

講座費用：15,000円(テキスト・資料代、消費税含む)、学生割引10,000円

※2016年度4月から他センターで資格講座を受講した場合についても、重度訪問介護従業者の資格取得支援として、リアライズに登録してから3ヶ月実働した時点で講座費用のキャッシュバックを行っている。

開講実績

【2019年度　第1回6月コース】

2019年6月9日(日)～6月30日(日)までの毎週日曜日、計4日間で実施。

定員：16名　　　申し込み件数：4名　　　受講者数：2名

【2019年度　第2回11月コース】

2019年11月17日(日)～12月8日(日)までの毎週日曜日、計4日間で実施。

定員：16名　　　申し込み件数：7名　　　受講者数：6名

【2019年度　第3回2月コース】

2020年2月9日(日)～3月1日(日)までの毎週日曜日、計4日間で実施予定。

定員：16名　　　申し込み件数：13名　　　受講者数：11名

**3．生活介護パイオニア【生活介護事業部門】**

**◆2019年度生活介護事業部門総括**

「障害者が中心になって、差別のない地域に変えていく」という目的をもとに、2019年度の活動方針である「パイオニアを地域にアピールすること」「特別支援学校や入所施設へのアプローチ」「メンバー同士のエンパワメント」の達成に向けて、各活動に取り組んできた。

特に2019年度においては、長年の施設での入所生活を経て自立を達成した障害者が、10月よりメンバーとして加入した。下半期においては、そのメンバーと共にエンパワメントし合えることを意識しながら活動に取り組んできた。

2019年度より、活動に取り組む体制として、メンバー代表に加え、長年CIL経験のあるメンバーをスーパーバイザーにおき、メンバーや活動全体を支えることとなった。また各活動の計画や進め方について、担当者で責任を持ち、考えていく形をとった。それにより、活動時間内での全員で行う会議が少なくなり、活動そのものに専念できるようになった。また、各メンバーが、担当者という役割を担うことによって、活動について主体的に取り組む機会も多くなった。

「パイオニアを地域にアピールする」活動においては、主に地域の小学校や高校を中心に、講演活動やフィールドワークなどを通して、障害者のおかれている状況や思いについて理解を広げ、障害者にとってのバリアとは何か、どうすれば解消されるかなどについて考える機会を持った。「特別支援学校や入所施設へのアプローチ」においては、以前より関わりのある入所施設のイベントに参加し、入所している障害者やその家族、職員と話をしたり情報交換をしたりして関わることができた。「メンバー同士のエンパワメント」においては、メンバーミーティングや、メンバー同士で話を聴き合う「メンバー聴き取り」を通して、日頃の活動や生活の悩みなどを話し合う場が定期的に持つことができた。一方で、育休メンバーの体調や生活環境の変化もある中で、パイオニアとの関わりがお互いに持ちにくくなっている。育休メンバーの状況次第でもあるが、今後、パイオニアが復帰しやすい場所になるように、活動への参加や、メンバーとの関わりが持てる機会などパイオニアとの関係が希薄にならないような働きかけをしていく必要がある。

活動全体としても、方針に沿わない活動が増えたため、活動の目的が分からなくなることもあった。例えば、その一つとしてランチ探しの旅のように、レクリエーションが活動の主目的となり、本来の活動方針から逸れる活動もあった。

2020年度においては、2019年度の課題点や反省点を踏まえ、活動に取り組んでいけるよう検討していく。　また、2019年度、活動ごとの総括や課題点、それを踏まえた今後の展望などを各担当者が考え、取り組んでいく体制ができたため、メンバー代表制を廃止し、新たな体制で取り組んでいくことになった。

**(1) 生活介護事業**

**［※障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するために法律に基づく障害福祉サービス事業］**

**① 障害者自立生活運動**

**○運動の取り組みへの参加**

障大連オールラウンド交渉、障大連総決起集会、アクセス関西ネットワーク集会、関西IL研修等に参加し、権利擁護活動を行った。

**○部門報告会**

パイオニアでは、それぞれのメンバーが障大連交通部会、教育部会、施設部会、日中活動意見交換会や泉障連などの取り組みに参加している。しかし、そこで知った情報が個々のものとなっていた。そこで、パイオニアの中で、互いの参加している部門の情報交換ができ、共有する場として部門報告会を行なうことになった。

部門報告会では、それぞれの部会に参加している担当者が話し手となり、部会で議論されていることや、部会内の活動の内容を共有している。

**○オールラウンド交渉事前学習会**

2019年度大阪府オールラウンド交渉に向けて、事前にパイオニア内で学習会を行なった。学習会を行った経緯としては、以前から交渉のときの言葉が難しく理解できず、積極的に参加したいという気持ちになれないという声が一部から挙がっていたからだった。

2019年度からは、部会報告会の活動が開始したこともあり、各部会に参加している担当者が事前学習をすることになった。今回は、総決起集会からオールラウンド交渉までの期間が短く、情報収集や学習会の準備をするにはタイトなスケジュールであったが、部会を担当しているメンバーそれぞれが学習会に担当者として取り組めたことは、パイオニアにとって大きな自信につながった。

**② バリアフリー活動**

**○トイレマップ活動**

泉大津市に車椅子・多機能トイレの場所を把握できるマップがないため、パイオニアの活動として実施することになった。

そこで、車椅子トイレや多機能トイレの情報発信を目的とした投稿型スマートフォンアプリ「Check a Toilet」を活用し、この活動に取り組んでいる。

このアプリには、チェック項目が設定されているので、筆記する必要がない上にチェックするポイントもある程度整理されているため、スムーズに活動に取り組むことができている。しかしながら、障害者の視点から見たときに足りない項目があるため、必要なチェック項目を加えるなど、より充実したトイレ調査になるように取り組みを続けている。

また、スマホを使っていない人でも情報にアクセスできるように、将来的に冊子の作成も目指している。現在は、地域での調査活動に加え、冊子や活動アピールをする際の展示物の作成を見据えて、泉大津市の拡大地図（A3×16枚分）を作り、チェックしたトイレの位置が分かるようシールを貼る作業を始めている。

なお、現在、生活介護パイオニアの活動による多機能トイレのアプリ登録数は、50件となっている。

今後、調査範囲を泉大津市のみでなく、近隣の市へとエリアを拡大する予定である。

**○ランチ探しの旅**

月に1回、地域の障害者と一緒にランチを食べに出かけている。

以前までのランチ探しの旅は、メンバー同士の交流を目的としていたが、2019年半ばからこの活動の目的を見直すことにした。

【段差のある店にスロープをかけている様子】

新たな目的として、段差などがあり、車いすで行けないバリアのあるお店を探してランチし、泉大津TRYのスロープ設置に結びつけることとした。目的が明確になったことで、メンバーがより積極的に活動に取り組めるようになった。

段差のあるお店を探し、スロープを持参して入店することで、店側はスロープの必要性を実感し、泉大津TRYの活動を知ってもらうようにしている。

また、メンバー同士の交流はもちろんのこと、地域の人とも交流ができているので、パイオニアのアピールにも繋がっている。

活動の成果を示すものとして、「パシュランガイドブック」を作成している。これは、ランチ探しの旅で行った店を車椅子でも入れるかどうか（段差の高さ、ドアの種類、店内の広さ、多機能トイレの有無等）を表記し、店内の写真を載せ、お店に行った感想などを記録するものである。

【段差のあるお店、発見！】

現在までに、11店舗の店でランチを行ない、そのうち3店舗を泉大津TRYにエントリーした。また、実際に1店舗にスロープを設置することができた。

**③ エンパワメント活動**

**○マイ企画**

以前は、創作活動として取り組んでいたが、今年からは「マイ企画」と名称を変えてスタートした。やってみたいことをメンバーそれぞれが挙げ、みんなで協力しながら実現に向けて取り組んでいくことを目的としている。自分のやりたい活動を手伝ってもらったり、他の人を手伝ったりすることでエンパワメントにつながっている。

活動の中で、メンバーからは、「自分の企画を応援してもらえるのはもちろん、他のメンバーの企画を応援するのも楽しい」との声があった。今後は企画のスケジュールを立て、それに向けてみんなで動けるように担当者を中心に調整していこうと考えている。現在までに行った企画としては、「メンバーで彩る活動写真集づくり」や「パイオニアをPRするためのグッズ作成」があった。

【初めてのブランコ＠浜寺公園】

**○メンバーミーティング**

毎月第2、第4水曜日に、メンバーミーティングを行い、メンバー同士のことを知っていく機会を作っている。

ここでは、メンバーそれぞれが、活動に対しての率直な意見や生活、介助の悩みや不安などを共有している。今後、メンバー同士が、安心して色々な話ができるように、話しやすい環境づくりや本音を出せる場にできるように進めている。

**○支援員ミーティング**

これまでの支援員ミーティングでは、自分の強みや他の支援員から見えるその人の強みなどをポストイットで挙げていき、お互いの思いを知ることで、信頼関係が生まれ、よりコミュニケーションがとりやすくなった。今年度には、常勤支援員の退職に伴い、職員の配置転換があった。転属した生活支援員としては、初めての生活介護業務に戸惑いもあったが、支援員ミーティングがあることで、日常活動の中で感じる疑問などを他の支援員に共有し、その解決を考えていくこともできている。

現在は、個々の支援員がパイオニアの目標を達成するために、課題に対しての各支援員が取り組める解決策を共有し、支援員共通のサポートの基盤を作っている。

**○遊び企画**

上半期の遊び企画は、6月にはドッジボール大会と色おにごっこ、8月にはプールを企画した。2回の遊び企画とも、今後パイオニアのメンバーとして活動する予定の障害者も参加した。

6月の企画では、メンバー、支援員が一緒に楽しむべく、工夫やルール作りを試行錯誤しながら考え、ドッジボールや色おにごっこを取り組むことができた。また、新しいメンバーが一緒に活動に取り組め、楽しそうに参加していた様子を見ることができた。

8月の企画では、パイオニアメンバーにとっても初めてのプール遊びを企画した。パイオニア全体でプールに行くのは初めてであり、また久しぶりのプールということもあり、メンバーはそれぞれどのように泳ぐか、支援員はどのように介助するか不安な点もあった。しかし、プールに入れば、浮輪やヘルパーなどの備品を使いながら不安なく楽しんでいた。この企画を考え、プールを熱望していたメンバーが当日体調不良で、プールに入ることができなかったので、再度パイオニアの遊び企画として行うこととなった。

【ドッジボール大会の様子】

10月の企画では、２回目のプール企画を行った。

今回は前回と違う場所で実施し、前回参加できなかった当事者も参加することができた。参加者からは久しぶりに「身体が自由になれ、すごくリフレッシュになった。」という感想があった。

12月の遊び企画ではクリスマス会を開催した。みんなでお昼ご飯を食べ、メンバーが考えたゲームし、より仲が深まった一日となった。

**④ 地域活動**

**○パイオニア主催の地域活動**

**・せんしゅうちいきピアサロン**

地域の障害当事者、家族や関係者が、継続的に気軽に関わりをもてる場として、月に１回ピアサロンを行っている。ピアサロンでは、お茶やお菓子を食べながら自己紹介に関するゲームや参加者との会話などを行いつつ交流している。

最近では、参加者がゲームを考えたり、司会をするなど新しい場面も出てきた。また季節ごとのイベントも取り入れ、参加者が楽しめる工夫もしている。

メンバーからは、「言語障害があり、参加者との会話が上手くいかなかったが、支援員のサポートもあり、参加者との会話を楽しめるようになってきた」という感想もあり、参加者と楽しく交流できる場になってきている。

**・NPO法人福祉活動と福祉教育の推進協会あすなろフィールドワーク**

上半期に引き続いて、福祉の資格取得者の養成などを行なっている、NPO法人福祉活動と福祉教育の推進協会あすなろのフィールドワークを実施した。

フィールドワークにおいては、リアライズの理念や活動の内容、社会モデルの考え方などについての講話や質問などの時間を取り、座学に加え介助体験的な要素として、昼食時にそれぞれのメンバーへの食事介助も体験してもらった。

講話に関しては、参加者の皆さんは熱心に話を聞いてくれ、質問やコメントが多く挙がった。

食事介助に関しても、初めて行なう人も多かったが、一つひとつの介助の仕方を当事者に聞き、息を合わせながら行なってくれた。

フィールドワークでの関わりから、ピアサロンへの参加につながり、それを通じて後日のイベントや活動に参加してくれた人がいた。結果として、良い繋がりの機会となった。

**○泉大津市立穴師小学校フィールドワーク**

2019年度から初の試みとして、泉大津市立穴師小学校で、4年生の生徒と一緒に学内のバリアを調査するフィールドワークを行った。

各グループに当事者が入り、当事者と生徒たちでともに学内を回って、どこにバリアがあるか？どうすれば解消されるか？ を考え、「障害があっても、人の手を借りれば何でもできる」ことを伝えることを目的とした。

ワーク中においては、生徒たちが積極的に後ろから車いすを押してくれたり、持ち上げてくれたりすることもあり、生徒たちの思いが感じられた。またバリア解消の案で、車いすを押すこと、植物を刈ることや砂場を埋めることなど、色々な案が挙がった。

また、質問コーナーにおいても、「どうして車いすに乗っているのか？」や「お風呂にはどうやって入っているのか？」などの質問や、メンバーの発言への反応が活発に起こり、活気ある時間になった。

【フィールドワークの様子】

**○大阪府立伯太高等学校講演・フィールドワーク**

2020年1月に、和泉市の伯太高校で講演と、学内のバリアを調査するフィールドワークを行った。

講演においては、福祉の科目を選択している3年生が対象だった。長年のグループホームでの生活を経て、自立生活を達成したメンバーが講師を担当し、「障害者が、長年のグループホームでの生活の中で経験を奪われるということはどういうことか？」や「そのようなグループホームでの生活を経て地域で自立する上での心境がどのようなものか？」といったことに焦点を当てて話をした。

内容としては、グループホーム生活において著しく早い時間に就寝を迫られることや、職員の都合によって門限が指定されること、使う金銭を職員に管理されることなど、具体的な生活の模様が語られた。自立生活をするまで、電子レンジの使い方のような、誰もが経験しているようなことができなかったことなどが語られた。

生徒からはひどい、信じられないといったような反応があり、障害者が経験を奪われるということについてリアルに感じてもらえたように思う。

また、質問コーナーにおいても、メンバーの年齢や車いす、趣味などについての話で盛り上がり、和やかな場を持つことができた。

フィールドワークにおいては、2年生を対象とし、各グループに障害者が加わり、生徒にも車いすに乗ってもらった上で、学内のバリアはどこにあるか？ どのようにすれば解消できるか？を一緒に考えた。その中で「障害は環境にある」ということをメンバーから伝えた。出入口の段差や狭い道など、生徒自身がなかなか進みにくいと感じられるところがあり、リアルなバリアを体感してもらえたのではないかと思う。また、あそこにも段差があるといったように、積極的にバリアについて考える生徒もおり、活発なワークとなった。

**⑤ 販売活動**

当該年度は実施せず。

**⑥ 情報発信活動**

**○ニュースレター、Facebookでの情報発信**

ニュースレター、Facebookを通して、生活介護パイオニアの活動の様子を発信している。

■2019年度上半期の生活介護パイオニアの主な活動

|  |  |
| --- | --- |
| 4月 | マイ企画（エンパワメント活動）  トイレマップ活動（バリアフリー活動）  泉大津TRY（地域活動）  メンバーミーティング（エンパワメント活動）  遊び企画（エンパワメント活動）  ピアサロン（地域活動）  ランチ探しの旅（エンパワメント活動）  日中活動意見交換会（権利擁護活動）  障大連総会（権利擁護活動） |
| 5月 | マイ企画（エンパワメント活動）  トイレマップ活動（バリアフリー活動）  メンバーミーティング（エンパワメント活動）  助松福祉地区ふれあい食事会（地域活動）  ピアサロン（地域活動）  ランチ探しの旅（エンパワメント活動）  教育部会（権利擁護活動）  交通部会（権利擁護活動）  障大連総会（権利擁護活動）  アクセス関西（権利擁護活動） |
| 6月 | マイ企画（エンパワメント活動）  トイレマップ活動（バリアフリー活動）  泉大津TRY（地域活動）  メンバーミーティング（エンパワメント活動）  遊び企画（エンパワメント活動）  ピアサロン（地域活動）  部会報告会（権利擁護活動）  ランチ探しの旅（エンパワメント活動）  日中活動意見交換会（権利擁護活動） |
| 7月 | 対府オールラウンド事前学習会（エンパワメント活動）  障大連総決起集会（権利擁護活動）  オールラウンド交渉（権利擁護活動）  マイ企画（エンパワメント活動）  トイレマップ活動（バリアフリー活動）  泉大津TRY（地域活動）  メンバーミーティング（エンパワメント活動）  ピアサロン（地域活動）  ランチ探しの旅（エンパワメント活動）  教育部会（権利擁護活動）  交通部会（権利擁護活動） |
| 8月 | マイ企画（エンパワメント活動）  トイレマップ活動（バリアフリー活動）  泉大津TRY（地域活動）  メンバーミーティング（エンパワメント活動）  遊び企画（エンパワメント活動）  ピアサロン（地域活動）  ランチ探しの旅（エンパワメント活動）  日中活動意見交換会（権利擁護活動）  部会報告会（権利擁護活動）  遊び企画（エンパワメント活動） |
| 9月 | マイ企画（エンパワメント活動）  トイレマップ活動（バリアフリー活動）  泉大津TRY（地域活動）  メンバーミーティング（エンパワメント活動）  ピアサロン（地域活動）  ランチ探しの旅（エンパワメント活動）  教育部会（権利擁護活動）  交通部会（権利擁護活動）  遊び企画（エンパワメント活動） |
| 10月 | 泉大津市上条地区ふれあい食事会（地域活動）  マイ企画（エンパワメント活動）  トイレマップ活動（バリアフリー活動）  泉大津TRY（地域活動）  メンバーミーティング（エンパワメント活動）  ピアサロン（地域活動）  なんばおにごっこ参加（地域活動）  部会報告会（権利擁護活動）  日中活動意見交換会「障害者しゃべり場＆支援員研修会」参加  アクセス関西学習会（エンパワメント活動）  遊び企画（エンパワメント活動）  関西医療大学フィールドワーク（地域活動）  泉大津市立穴師小学校フィールドワーク（地域活動）  羽衣国際大学文化祭出展（地域活動）  NPO法人福祉活動と福祉教育の推進協会あすなろフィールドワーク（地域活動） |
| 11月 | インディペンデントリビング上映会（地域活動）  マイ企画（エンパワメント活動）  トイレマップ活動（バリアフリー活動）  生活介護あるくる合同バーベキュー（エンパワメント活動）  泉大津TRY（地域活動）  南部の集い「防災学習会」（エンパワメント活動）  メンバーミーティング（エンパワメント活動）  ピアサロン（地域活動）  南海福祉専門学校文化祭出店（地域活動）  教育部会（権利擁護活動）  交通部会（権利擁護活動）  ランチ探しの旅（エンパワメント活動） |
| 12月 | マイ企画（エンパワメント活動）  夢宙感謝祭参加（エンパワメント活動）  部会報告会（権利擁護活動）  トイレマップ活動（バリアフリー活動）  いこらいず交流会（エンパワメント活動）  泉大津TRY（地域活動）  メンバーミーティング（エンパワメント活動）  ピアサロン（地域活動）  遊び企画（エンパワメント活動）  ランチ探しの旅（エンパワメント活動）  自立生活センターナビ小坪氏ILP学習会（エンパワメント活動） |
| 1月 | マイ企画（エンパワメント活動）  トイレマップ活動（バリアフリー活動）  泉大津TRY（地域活動）  メンバーミーティング（エンパワメント活動）  ピアサロン（地域活動）  教育部会（権利擁護活動）  交通部会（権利擁護活動）  ランチ探しの旅（エンパワメント活動）  大阪府立伯太高等学校講演・フィールドワーク（地域活動） |
| 2月 | マイ企画（エンパワメント活動）  トイレマップ活動（バリアフリー活動）  上条地区福祉委員会ディスコン大会参加（地域活動）  部会報告会（権利擁護活動）  泉大津TRY（地域活動）  メンバーミーティング（エンパワメント活動）  ピアサロン（地域活動）  ランチ探しの旅（エンパワメント活動）  泉大津市立誠風中学校人権学習（地域活動）  2019年度パイオニア活動評価アンケート実施 |
| 3月 | 教育部会（権利擁護活動）  交通部会（権利擁護活動）  トイレマップ活動（バリアフリー活動）  メンバーミーティング（エンパワメント活動）  ランチ探しの旅（エンパワメント活動） |



**４．NPO法人リアライズ法人本部【本部事業部門】**

**(1) 他団体との交流、共同推進事業**

**① 障害当事者団体及び障害者福祉関係機関との共同推進**

あらゆる機会を通じて、全国、関西、大阪、泉州地域の障害者関係団体との協働を行っている。

また、泉大津市社会福祉協議会と連携して、防災への取り組みを行っている。2019年度は講師に大阪ボランティア協会の梅田氏をお招きし、2018年度の台風21号をうけての地域のネットワークづくりに向けた防災の講習会を9月に実施した。企画段階より、これまでも共に取り組んできた泉大津市市民活動支援センター「おづぷらざ」に加え、2019年よりサポートセンターいずみおおつも加わった。11月に開催した学習会は大勢で賑わったこともあり、2019年度は2月に2回目の学習会の開催が決定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止となった。

2018年に須磨海浜公園に海水浴へ行ったことをきっかけに、須磨のビーチをバリアフリーにする取り組みを行っているSUBP（須磨ユニバーサルビーチプロジェクト）の方と出会い、取り組みに感銘を受け、意気投合した。大阪では須磨ほどバリアフリーのビーチが存在しないため、須磨をモデルに大阪でもバリアフリーなビーチを実現するために取り組みを始めた。車イスのままでビーチを通行できるようにするビーチマットや水陸両用車イスを誘致するため、泉南里海公園を管轄している阪南公安事務所、阪南市役所と協議を進めている。

＜参画・協働している団体＞

・DPI日本会議

・障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議

・全国自立生活センター協議会

・泉州障害者自立生活連絡会

・泉州フォーラム実行委員会

・泉大津市・忠岡町地域自立支援協議会

・泉大津市相談支援・権利擁護ネットワーク

・熊本地震被災障害者救援本部関西実行委員会

・アクセス関西実行委員会

**② 映画「インディペンデントリビング」試写会**

11月に映画「インディペンデントリビング」の試写会をテクスピア大阪・小ホールにて実施した。本試写会は誰にとってもバリアフリーを掲げ、要約筆記やUDCastによる音声ガイド、キッズスペースの設置を行った。本作は“自立生活運動”の現在をテーマにした作品で、リアライズで自立を目指す当事者とその家族及びリアライズスタッフも主要人物として登場している。

計画当初より、お客さんとして呼ぶ方は、これまで“自立生活運動”や“CIL”に関わりのない人をメインターゲットにしたいとの想いがあった。そのため、繋がりのある地域の事業所や学校、親の会、作業所などを中心に周知活動を行い、地域のお祭りでPRのためのブースを出店するなど地域への周知に力を入れた。また、映画の内容をより理解し、“自立生活運動”や“CIL”に興味を持ってもらうため、当日は2回の上映に加え、監督・出演者によるシンポジウムを行った。

試写会では1部2部の合計で141名の方にお越し頂き、アンケートを56部回収することができた。来場者の多くは泉大津の方で、「ILの意味の大きさを感じた」や「リアルな生活や気持ちが伝わってきた」などの感想を得られた。

**③ 関西医療大学フィールドワーク**

11月に関西医療大学1回生の「環境と福祉」の授業でフィールドワークを行った。2018年に続き「環境と福祉」では講師依頼を頂いており、2019年の受講生は62名で、2回目の実施となった。

学生は4人1チームとし、４つの役割（車いす役、介助者役、記録役、インタビュアー役）を担当して、校内の指定したルートを進んでもらった。ルートの中には、バリアとなる段差や坂道や階段等が含まれ、バリアの各所でスタッフを配置した。そこでは、バリアに関するエピソードトークや安全に利用するためのコツ等を話した。

車いすに乗ることや介助をすることが初めての学生が多く、普段は何も感じず利用するルートでも、今回のフィールドワークを通じて障害を感じた学生が多いようだった。

**(2)情報提供発信事業［※情報提供発信事業］**

**① リアルライフＮＥＷＳの発行**

2019年5月に約450部を第25号（新年度号）として発行した。

対象者：法人会員

リアライズに関わる人

全国の自立生活センター

泉大津市内の障害者を対象としている事業所

泉州8市4町の会館と役所

詳細：2018年度事業年表

スタッフ・パイオニアメンバーの新年度挨拶

パイオニアLetter

事業報告

社会的養護で育つ子どもたちの暮らしの場所から

編集後記

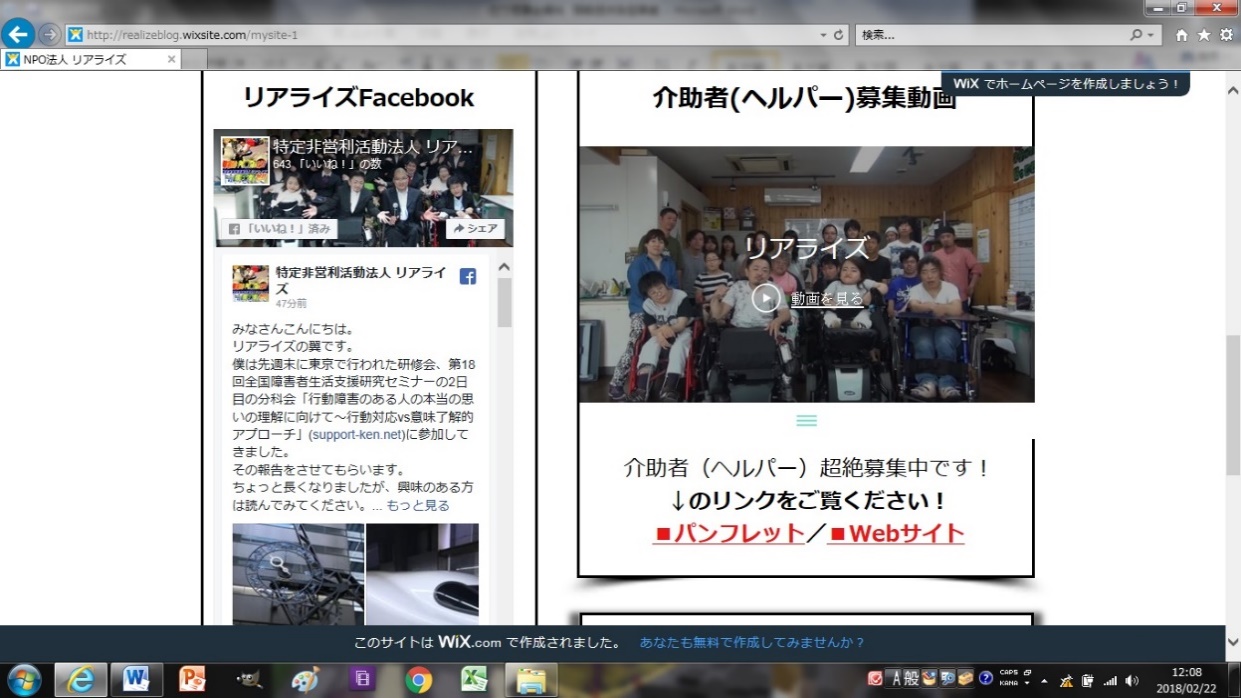
**② ホームページの運営**

2017年２月より、ホームページ作成サイトを改め、wixサイトを使用し始めた。（<http://realizeblog.wixsite.com/mysite-1>）

新たなホームページでは、法人紹介、ヘルパー募集、スタッフ紹介、パイオニアメンバー紹介、ブログ、動画、活動予告、来訪者カウンターなどを掲載している。また、リアルライフNEWSの発行と同期し、PDFファイルでのデータ版もアップロードをおこなっている。視覚障害者対応にすべく視覚障害者からアドバイスをもらい、随時再編している。

2017年2月8日に、新旧ホームページのリンクを結合し、旧ホームページを消去した。そのことから、アクセス数のデータは2016年12月半ば（新ホームページ開設月）以降からカウントがスタートしたため、2019年度総会時（2019年6月10日）のアクセス数は、12329回となり、2020年度総会資料作成時（2020年5月18日現在）のアクセス数は、14924回で、2595回のアクセス数の延びがある。

また、ホームページを閲覧し介助者希望で来所される人が増加した。この理由として、介助者募集動画をアップロードしていることが効果的だったと推測する。



また、リアライズの活動報告と自立生活に関する情報発信をFacebookとホームページにておこなっている。



　　　　　【Facebookとホームページで掲載した事業】

4月　**新年度全体会議**

「インディペンデントリビング」説明会＆トークショーへの参加

ピアカウンセリング集中講座in愛媛県への参加

他団体生活介護交流会in　ＮＰＯ法人ぱぁとなあ

5月　障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議総会への参加

**現任研修「調理研修」**

**スタッフ交流会「祝！令和！鍋Party」**

6月　メインストリーム協会主催「筋ジスの自立生活とは？〜筋ジス病棟から自立生活へ〜」への参加

**重度訪問介護従業者養成研修6月コース**

**スタッフ送別会**

**「2019年度第28回全国自立生活センター協議会協議員総会、職員研修会」への参加**

7月　京都JCIL来所＆交流会ＢＢＱ

2019年度障大連総決起集会への参加

新人研修

オールラウンド交渉への参加

神戸学院大学現代社会学部　前田拓也さん来所

和泉中央駅桃山学院大学間エレベーター完成現地立ち合い

8月　NPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト海水浴

夢宙センター　ノアさん帰国後報告会への参加

**ボクシングWBA世界ライトフライ級１位久田哲也選手ＢＢＱ交流会**

**スタッフ送別会**

9月　東大阪開催「インディペンデントリビング」映画上映会：参加

**リアライズ合宿in神戸しあわせの村**

**現任研修「コミュニケーション研修～聴く力編～」**

10月　久田選手ボクシング試合観戦

四天王寺大学「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」講演

**現任研修「コミュニケーション研修～伝える力編～」**

**羽衣国際大学学祭出店**

11月　泉大津市地域イベント「わいわいフェスタ」出店

泉大津市「さんま祭り」への参加※スロープ設置

**映画「インディペンデントリビング」上映会**

**現任研修「自分史」**

**重度訪問介護従業者養成研修11月コース**

DPI日本会議主催「第8回DPI障害者政策討論集会」への参加

12月　**関西大学「福祉の利用者の方々からのお話から考える地域福祉」プログラムにて講演**

第3弾いこライズ交流会

障大連主催の「大阪障害者自立セミナー2019」への参加

2019年度JIL全国セミナーへの参加

**リアライズ新人スタッフ歓迎会**

1月　**福井県fools交流会**

**スタッフ送別会**

2月　**重度訪問介護従業者養成研修2月コース**

障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議全大会

**重度訪問介護従業者養成講座2月コース**

**バレンタイン介助者募集♡♡**

障がい者が地域の中で生き生きと暮らすために～私たちができることはなんだろう～

楠敏雄さんを偲び語る会

3月　DPI日本会議主催の差別解消法見直しに向けてタウンミーティングin大阪

＊毎月第１土曜日は「泉大津ＴＲＹ」

毎月第３金曜日夜「リアライズ食堂」

　　　　　　　毎月第３土曜日「ピアサロン」

　　　　　　　毎月第２金曜日「リアライズ共有会」

**太字**記載は、リアライズが主催した事業である。

2020年度

(2020年4月1日～2021年3月31日)

活動計画(案)

**2020年度NPO法人リアライズ事業計画書**

2020年4月1日～2021年3月31日

特定非営利活動法人リアライズ

**Ⅰ．2019年度活動方針**

　2020年度は、設立当初より13年間、理事長に着任してきた三井の「次世代への早期の継承」を目的とした退任の希望により、2020年7月1日より、本総会及び理事会で決定することとなる新役員体制となる。

新体制においても持続的発展を遂げることが出来るよう、各部門代表と理事が集まり20回を超える代表者会議を開催してきた。その中で、新たな理念と目的を確認し、障害者が中心であるCILであることの重要性、決定プロセスの改革、人材育成と定着、子育て支援、働き方の改革など、新たに確認された理念「奪われた経験を仲間と共に取り戻す」、と目的を達成するための「7つの改革」を行う。また、これらの改革を達成するための具体的な中身の検討、又それらを盛り込んだ実行計画の作成も行っていく。

理念のように、障害者の奪われた経験を「やりたい」に変換し、それを取り戻していくことができる場であるには、熟練したスタッフの力が必要不可欠である。

しかしながら昨今、離職率が上がっている現状があり、スタッフのライフステージの変化に対応し、個々の役割に従事し続けられる場を作ることが急務である。

リアライズの特色として、障害者の権利を守ることや障害者主体という価値観の共有については申し分ないところであるが、その反面、リアライズで活動する人に対する環境づくりが疎かになっていた部分があった。

そのため7つの改革では、活動する人への環境づくりやリアライズの仕組みそのものの改革に比重を置いたものとなっている。（以下、計画抜粋）

------------------------------------------------------------------------------------

【理　念】：奪われた経験を仲間と共に取り戻す

【目的①】：障害者が人との出会いと新たな経験を広げることで、障害者であることに自信と誇りをもてるよう、地域社会の一員としての自立した生活を実現することを目指す。

【目的②】：障害があるがゆえの我慢を強いられることのない泉大津市の実現を目指す。

【7つの改革】

[1st] 障害者のやりたいことを実践するCILとしての再構築

[2nd] 役割・権限・責任において一貫性のある意思決定の仕組みの改革

[3rd] 新たな経験の獲得と多様な働き方を実現するためのローテーションの導入

[4th] 障害者の自立支援・エンパワメントにおけるチームと責任者の設置

[5th] スタッフの人材育成・定着支援におけるチームと責任者の設置

[6th] ライフステージの変化による影響を軽減するための子育て支援策の導入

[7th] 活動を応援するためのゆとりを生み出す働き方の改革

------------------------------------------------------------------------------------

このように、2020年は、新役員体制の下、リアライズの13年間の総括と未来に向けた持続的発展のための課題に取り組む所存である。

**Ⅱ．システムアドボカシー活動方針**

**１．障害者差別解消法及び大阪府障害者差別解消条例の施行に合わせた取り組み**

DPI 日本会議、障大連等、ODF、泉州フォーラム等の団体の動向を注視しつつ、障害者差別解消法及び大阪府障害者差別解消条例が障害者の権利擁護のために有効なものとなるよう働きかけを行っていく。

泉大津市・忠岡町地域自立支援協議会権利擁護部会(障害者差別解消支援地域協議会)に、リアライズが委員として参画していく。

**２．車イスユーザーへの管理会社による入居差別に対する取り組み**

今後、仲介業者である不動産会社に不利益が被ることなく、尚且つ差別を明るみにし、適切な問題解決を図れるよう、差別解消に向けての新たな仕組みを模索し、障害者差別解消窓口に対して意見提起をしていく。

**３．泉大津市での審査会の問題についての取り組み**

区分認定や非定型の申請時に審査会における差別的発言や権利侵害がないよう、引き続き改善に向けて障大連、泉障連と連携しつつ、リアライズとしては審査会で話された内容についての情報収集を行っていく。

**４．泉大津市の入院時コミュニケ―ション支援事業の創設に向けての取り組み**

現在、障害者総合支援法の施行後3年の見直しを終え、2018年4月から重度訪問介護サービスを普段利用している障害者が、病気やケガなどで入院した際に、ヘルパーを病院内（病室等）でも利用できるようになることが決まった。しかし、対象者は障害支援区分6の者と限定されている。市に対して引き続き入院時コミュニケ―ション支援事業の創設に向けての働きかけをしていく。

**５．南海電鉄 駅員無配置化問題 解消に向けての取り組み**

引き続き、駅員無配置化にともなう課題の解消に向け、今後の提案の仕方や改善の進め方などについて継続的に検討を進めていく。

**６．南海バスの接遇問題等の改善に向けての取り組み**

今後とも、トラブルの解消と再発防止に向けて、接遇研修を呼びかけていく。また、今後研修を受講する営業所の偏りをどう解消していくのか、障大連と連携しながら南海バスとの協議を継続するとともに、大阪府の差別解消相談窓口を通じて南海バスに接遇改善を働きかけていく。

**７．大津川河川敷公園におけるハートフルゲート撤去の取り組み**

ゲート撤去より１年が経過するため、改めて経過の状況を確認して、活動の継続の是非も含めて今後の方向性を検討していく。

**８．泉大津TRY**

2019年度に引き続いて、地域の色々な人とともに泉大津市の店舗のバリアフリーを推進していく。2020年度においては特に、新型コロナウイルス感染拡大にともなう健康・経済面等の弊害を鑑み、市や商工会等とも協議しながら、募金等さまざまな手段を用いてコロナ対策を実践することにより、地域貢献の可能性を模索していく。

**９．泉大津市役所に隣接する東雲公園出入り口バリアフリー化の取り組み**

これからも、バリアフリー化に向け市と協働して取り組んでいく。

**Ⅲ．事業の実施に関する事項　※予算については予算書を参照**

**Ａ．特定非営利活動に関わる事業**

**１．自立生活センター・リアライズ【相談支援・エンパワメント事業部門】**

**◆相談支援・エンパワメント事業部門方針**

2020年度は、2019年度に引き続き、長年入所施設等での生活を余儀なくされている障害者や地域で孤立しがちな障害者に対し、部門を超えたあらゆるメンバーと連携しながらその人らしい生活を実現できるように取り組んでいく。また、本人が希望する地域で自立生活を実現できるよう必要な社会資源と繋がり、介助体制や医療体制を整えていけるようにサポートしていく。

相談員や一部の介助者だけではなく、これまで自立支援に関わりを持ててこられなかっ

たメンバーも巻き込みながら、チーム体制としてその人を応援できる仕組みを作っていく。

具体的には他部門と連携しながら、長年入所施設生活を余儀なくされている障害者

の地域移行にも取り組んでいく。旧国立療養所に長年入院をしている難病の当事者の地域移行にも力を入れていく。そうした地域移行の取り組みに余裕を持って尽力できるよう、相談業務の整理や他部門のメンバーとの連携強化に努めていく。

2020年度は自立生活センターとしての自立支援やエンパワメント活動、権利擁護活動に主軸を置いていけるよう、これまでの相談業務だけではなく、他事業についてもあり方を見直し検討していく。

また、昨今猛威を奮っている新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2020年4月以降、情勢に応じて事務所及び生活介護を閉所することにより、顔の見えるやり取りが困難な状況がしばらく続くと思われる。相談支援で関わる全ての障害者が孤立した生活を送らないようにするため、感染予防に努めながらビデオ通話などのツールを駆使するなどし、随時近況の確認を行っていく。

**(1) 泉大津市指定特定相談支援事業［※障害者自立支援法に基づく相談支援事業］**

泉大津市指定特定相談支援事業を引き続き実施する。また、泉大津市・忠岡町地域自立支援協議会に参画し、行政、関係機関、様々な社会資源との連携を図る。また、泉大津市にかかわる障害者総合支援法に定められた相談支援専門員及び相談支援事業所が加盟する泉大津市相談支援・権利擁護ネットワークの運営、活動にも引き続き参画する。

**(2) 自立生活相談事業［※権利擁護事業］**

**① 自立生活相談事業**

自立生活を達成するための相談、セルフプラン作成の支援を実施する。リアライズの介助に対する考え方や障害者の暮らしのエピソードを記した、「これからリアライズの介助派遣を利用するあなたへ」という冊子を活用し、自立生活についての説明を丁寧に行っていく。

**② ピアカウンセリング事業**

個別のピアカウンセリングを必要に応じて実施し、障害者のエンパワメントを図る。また、障害者が集い、交流を通じて相互にエンパワメントできる、地域に開かれた場として「ピアサロン」を開催する。

**(3) 自立生活体験事業［※権利擁護事業］**

**① 自立生活プログラム事業**

個別の自立生活プログラム（以下ILP）を必要に応じて実施し、障害者のエンパワメントを図る。また、地域の実情に応じて、集団自立生活プログラムを実施する。

**②　自立生活体験室事業**

宿泊、日帰りでの自立生活の体験の場や、海外研修生などの宿舎として自立生活体験室の提供を行う。

**(4) 権利擁護事業［※権利擁護事業］**

**①　人権セミナー事業**

必要に応じて随時実施する。

**②　自立生活応援事業**

自立生活に向けての取り組みを進めていく上で、支援の必要性があるにもかかわらず、制度では認められていない部分を支援する。

**(5) 人材育成事業 [※その他、この法人の目的を達成するために必要な事業]**

新たな出会いを通じて、自立生活運動を行う上で必要な価値観、経験、実践を知ることで、自立生活センターのスタッフとして必要なスキルを得るための人材育成を積極的に行う。また、ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業をはじめとする、人材育成への協力も行う。

**(6) その他事業**

相談で関わっている地域の障害者やリアライズのスタッフ、生活介護のメンバーに向けて毎月1回「リアライズ食堂」を開催する。周知方法や準備の在り方、コンセプトなどを再検討し、より地域に根差した食堂を展開する。

**２．自立生活センター・リアライズ【介助派遣事業部門】**

**◆2020年度介助派遣事業部門方針**

介助派遣の状況は、介助者・障害者ともに日々目まぐるしい変化がある中で、コーディネーター・介助スタッフ・介助リーダー・登録介助者がそれぞれの役割で動いている。コーディネーター業務においては、業務内容の整理を進めつつ、コーディネーター以外に担ってもらえる内容については、引き継ぐ方法を検討していく。そして、コーディネーター業務の中で大きな割合を占めるシフト作成や調整については、シフト携帯の持ち回りを恒常的に行い、従来とは違う形も検討しつつ、負担軽減と効率化を目指していく。シフト携帯の持ち回りについては、コーディネーターの負担軽減という観点だけでなく、役割を越えて一緒に考えながら協力し合っていきたいという思いがある。そのためにも、共有しながら話し合う場を作っていく。

この間、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、介助先をなるべく限定して介助に入ってもらうシフトの担当制、電話やオンラインによる聴き取りなど、対応しているところである。介助者に対するサポートやフォロー体制については、従来から実施している聴き取りの安定化を目指していく。しかし、聴き取りや確認研修だけではサポートやフォローが行き届かないため、新たな仕組みを導入しながら介助者の定着に努めていきたい。具体的には子育て世代が、障害者の生活を考えながら安心して活動し続けられる仕組みづくりや、介助者がスキルアップできるような研修体制の充実化も目指していく。

介助者不足は例年通りの課題となっているが、従来から行っている介助者募集に留まらず、昨今の新型コロナウイルス感染拡大の中で、今までにない発想や行動も取り入れ、いろんな形でアプローチしながら、介助者募集に力を入れていきたい。そして、この事態に障害者の生活が影響されることなく、介助派遣が継続できるように柔軟に取り組んでいきたい。

また、障害種別に関わらず自立支援に取り組んでいくことができるよう、各部門と連携しながら障害者の自立生活の実現に向けて取り組んでいく。

**(1) 居宅介護事業［※障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業］**

障害者総合支援法（旧障害者自立支援法）に基づく居宅介護事業を実施する。

**(2) 重度訪問介護事業［※障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業］**

障害者総合支援法（旧障害者自立支援法）に基づく重度訪問介護事業を実施する。

また、特定事業所加算Ⅰを維持できるよう体制を整備する。

**(3) 移動支援事業［※障害者自立支援法に基づく地域生活支援事業］**

各市地域生活支援事業に基づく、移動支援事業を実施する。

**(4) 介助者研修事業［※自立生活介助者育成事業］**

障害者の自立生活についての理解を深めるとともに、当事者の主体性を尊重することのできる介助者の育成を行っていく。

介助者が問題を一人で抱え込んだり、孤立したりすることのないよう、コーディネーター、介助スタッフで個別の聴き取り(面談)を行っていく。

そして、介助者の定着につながる取り組みの一環として、介助者の働き方や介助者の役割等について他の団体とも協力して考えていきたい。

**(5) 制度外介助派遣事業［※自立生活支援事業］**

自立生活の継続、又は自立生活を目指す障害者であって福祉サービスの対象とならない介助派遣を希望する場合において、有償、又はボランティアでの介助派遣を行うことにより、生活の質の向上、及び社会参加の促進を図ることを目的とする。

**(6) 重度訪問介護従業者養成研修事業［※居宅介護等従業者及び介護員養成研修事業］**

重度訪問介護従業者養成研修を年2 回程度開催する。

開催方法は、柔軟に対応できるよう検討をしていく。

**３．生活介護パイオニア【生活介護事業部門】**

**◆2020年度生活介護事業部門方針**

「障害者が中心になって、差別のない地域に変えていく」という理念のもと、2020年度は新たな方針や計画を立て、活動に取り組んでいく。体制としては、メンバーがそれぞれの活動を進める担当者となり、またスーパーバイザーを中心とした運営会議が、活動の方向性の修正や、新たな活動を決定する役割を担い、取り組んでいく。

2020年度においては、そのような体制の下で、「自立生活プログラム（ILP）、ピアカウンセリングを含めた障害者同士のエンパワメント」「入所施設や特別支援学校へのアプローチ」「地域の学校とつながること」の３点を2020年度の年間活動方針とし、これらの方針にもとづいた活動を行っていく。

「自立生活プログラム（ILP）、ピアカウンセリングを含めた障害者同士のエンパワメント」においては、ILPやピアカウンセリングを実践し、その手法を学ぶことで、メンバー同士で支え合い、高め合っていくこと、そしてメンバーがピアカウンセラーとして地域の障害者をエンパワメントできることを目指す。まずは、自分たちがILPやピアカウンセリングを通して、メンバー自身の権利意識の向上や、生活課題の解消策について、考える機会を作っていきたい。また、この活動については、積極的に外部講師を呼び、取り組んでいく。

「入所施設や特別支援学校へのアプローチ」においては、入所施設や特別支援学校の障害者と積極的に関わりを持ち、その後もつながりを深めていく。その中で、メンバーが新しく出会った障害者と自立生活運動の良さなるものを共有し一緒に活動していくことにより、その障害者の自立生活を応援することを目指していく。

「地域の学校とつながること」においては、人権学習を継続していくとともに、泉大津市内の多くの学校で講演をさせてもらえることを目指す。その達成のため、他センターや障害者の学校活動なども参考にしながら、パイオニアだからこそできる、障害者だからこそ伝えられる思いをもとに、講演内容の充実を図り、学校との信頼関係を作っていく。

2020年度は、このような方針のもと、障害者が中心になって活動していくという理念がより具体的な形になっていくよう、主体的に活動していく。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月9日より生活介護事業を休止している。休止期間の中で、活動するモチベーションが低下しないように、またそれぞれが孤立せずにメンバー同士のつながりを持ち続けられるように、在宅活動としてSkypeによるミーティングを行っている。ミーティングでは、メンバーミーティングのほか、介助者募集やリアライズに関わっている人との繋がりなど、今後リアライズや自分達の生活にとって必要なことを出し合い、活動に取り組んでいる。

**(1) 生活介護事業［※障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するために法律に基づく障害福祉サービス事業］**

障害者総合支援法（旧障害者自立支援法）に基づく生活介護事業を実施する。

また、実施にあたり、生活介護計画の作成、身体等の介護、相談、健康管理、送迎サービス等、生活介護事業に必要なサービスを行う。

生活介護パイオニアは、障害者が中心となり、差別のない地域に変えていくことを目的としている場である。また、自立生活を送っている、もしくは、目指している障害者、積極的に活動に取り組んでいく障害者によって構成されており、具体的な活動内容は以下①～⑥の通りとする。

**① 障害者自立生活運動**

障害者の生活を障害者自身で獲得していくために、オールラウンド交渉や総決起集会等の権利擁護活動への参加を行う。また、共に活動し社会を変えていく仲間を増やすために、自立生活の実現に協力してくれる人材の募集活動等を行う。

**② バリアフリー活動**

公共交通機関や街のバリアフリーチェック等の活動を行う。

**③ エンパワメント活動**

障大連など他団体との交流、研修会への参加、ピアサロンの取り組みや施設イベントへの参加を通して、相互のエンパワメント、仲間づくりを行う。

また、ILPやピアカウンセリングを実践し、またその手法を学ぶことで、メンバー同士や、これから出会う障害者のエンパワメントを行なっていくことを目指す。

**④ 地域活動**

ピアサロン活動などの企画や取り組みを通し、地域との交流を行う。また、学校等での講演活動や交流を通して、生活介護パイオニアの活動や障害者の自立生活について、生徒や地域住民に知ってもらう機会を作る。

**⑤ 創作活動**

2020年度は実施しない。

**⑥ 情報発信活動**

生活介護パイオニアの活動をFacebookやツイッターや、機関誌「リアルライフＮＥＷＳ」を通し、情報発信を行う。

**４．NPO法人リアライズ法人本部【本部事業部門】**

**(1) 他団体との交流、共同推進事業**

**① 障害当事者団体及び障害者福祉関係機関との共同推進**

泉州地域をはじめ、府内、全国の障害者団体や福祉事業者とのネットワークを構築し、障害者の権利擁護のための共同推進を図る。

2019年度には実現できなかった学習会の機会を含め、泉大津市社会福祉協議会との継続的な連携を図りつつ、これまでの繋がりを広げていくことを目指す。

SUBP（須磨ユニバーサルビーチプロジェクト）とのコラボでは、2020年度の大阪のビーチでの実現に向け取り組みを進めている。

また映画「インディペンデントリビング」試写会PRの際の地域のお祭りへのブース出店では、自治会や地元商店街の方々と新たな繋がりができ、2020年度もブースの出店を予定している。

**② 関西医療大学フィールドワーク**

既に2020年度も「環境と福祉」の授業での講師依頼を頂いている。2018年度、2019年度での講演、フィールドワークが学生に好評で先生からも評価され、2020年度は時間数の拡大の依頼を受けた。

時間数の拡大に伴い、フィールドワークでの行動範囲も大きくできるため、校内のみならず、様々な場所を体験してもらえるよう取り組んでいく。

**（2）情報提供発信事業[※情報提供発信事業]**

活動の報告と自立生活に関する情報発信を、インターネット及び紙面を活用して実施する。また、インターネット媒体で、ホームページ、Facebookなどの発信をおこなう。

機関誌、「リアルライフNEWS26号」については、現在の新型コロナウイルスの影響により、HPにPDFデータにて2020年5月に記載する。



